

昭和四十四年

十月三十日 三十一日
十一月一日

谷森善臣旧蔵本展示目錄

宮内庁書陵部

內 容 目 次

發 行 所 在 地 目 次

發 行 所 在 地

發 行 所 在 地

目 次

(一) 吉部秘訓抄 第五
吉記

建久二十四年

嘉曆頃写

一卷 谷 四六一

(裏)

律断簡

目錄・八處(四紙)
儀制令首部(二紙)

仮名消息・年貢算用状等 (九通)

(二) 天平時代文書

原本

一卷 谷 四〇九

1 写経生高屋赤麻呂解 天平一三・三・一五

2 辨官仕丁料物請求文書 天平一七・一〇・二二
首欠

3 写書所解 筆請求 天平勝宝三・五・二
(裏) 上日文書断簡

4 僧泰敏経卷返納状 天平勝宝二・一二・二六

5 作石山寺所解 天平宝字六・二・二七
上日并雜物請求

(三) 伊賀国御封米散用支配事並沽券 原本

一卷 谷 四二一

1 東大寺領伊賀国御封米散用注進状 治承五・六・三

2 大和国添上郡左京二条里角明神北裏島地手継券文

石太郎讓状 明徳三・二・九

太郎四郎壳券 貞和四・二・二一

藤次郎壳券 元徳元・三・七

馬次郎壳券 正和三・二・九

(四) 美濃国大井庄下司職争論事 寛喜三・五
首欠

中原章行勘申

原本

一卷 谷 四一二

(五) 後白河院庁下文案 永万二・三・八
但馬国温泉庄榜示事

永万写

一卷 谷 三八八

(六) 古文書類

原本

一卷 谷 四三〇

1 春日社廻廊修造石壇石運送請定 貞徳二・七・一〇
丑寅方

2 同右 戊亥方

3 同右 菩提院方

4 興福寺僧良範申文案 元仁二・二
広瀬寺庄武士乱入難堪事

5 高田別部内給田注進状案 建長五・正

6 某郷民等起請文断簡 建長五・九・三

7 六波羅裁許下知状 延慶元・一〇・一二
播磨国久留美庄近行名和与中分事

8 守光・助忠等淀関務契約状 曆応三・一〇・一九

9 僧舜慶水田作所職沽却状 応永三二・四・二〇

10 春日若宮遷宮社家請取雜事注進状案 応永一五・一〇

11 春日若宮遷宮社家請取雜事雜具注進状案 応永一五・一〇

12 室町將軍足利家御教書 長祿元・一〇・一六
大和国關所地御料所停止事

(參考) 同年月日幕府奉行人連署奉書案―春日神社文書三一九号―

13 芙蓉水田作主職壳券 長祿四・一一・二四

14 撰政藤原基通諷誦文 元暦元・一二・一七

(端裏書) 御參宮時金堂御諷誦文 元暦元年

15 大和国司庁宣 承暦二・一一・一〇

(七) 古文書 元弘―正平 原本写本 一卷 谷 四三二

1 後醍醐天皇綸旨 元弘三・七・二〇
寺田範長当知行安堵

2 某書状 正中三・三・二八
安養院宛・河上庄領家得分事

3 押小路殿袖判御教書 正中三・四・二六
野口牧外小河方行元・元次名事

4 後村上天皇綸旨 正平六・一二・一五
神護寺祈禱事

5 後村上天皇綸旨 正平八・七・一一
蓮華峯寺領備前國長田庄知行安堵

6 関白家御教書案 近衛基嗣
建武四・八・一三
梅津庄内新御堂執行事并末永名事

7 東北院家御教書案 (南北朝期)八・一〇
宇治路野伏対治事

8 隆顯下知状 正平七・二・晦
東寺御影堂供僧職事

9 道興法印請文 正平一四・一〇・二二
門跡法流事

10 新葉和歌集卷二断簡

11 某書状 (久年)六・二八

(八) 西園寺家古文書

原本

一卷 谷 四一〇

1 室町將軍家御教書 応永三・六・二七
鳥羽庄・宇多庄等事

2 西園寺家雜掌申状 永正九・四
淀魚市下司分事

3 三雲資胤禁制 享祿四・三・七
北河原・中島庄

4 治部少輔宣衡書状 三栖庄事

5 大聖寺殿塔頭長生院所領目錄

(九) 統高僧伝 第三

大治二年写
釈静因

一卷 谷 三八四

(奥書)

以同年七月上旬同静因大法師比較了」

維大治二年丁未六月中法隆寺一切経教卷諸書」

中此伝三四兩卷静因敬奉書写了」

願以此善根四恩成仏道」

(裏)

「法隆寺一切経」墨印等

(八) 建久三年 皇太神宮年中行事

天文二四年写
権福宜大物忌

一册 谷 三五二

(七) 尊卑分脈 零本

室町期写

一册 谷 四四六

(奥書)

(天カ)

□正十一年中秋廿感得之

(六) 諸家大系図 尊卑分脈 目錄・第一―第三 洞院公定撰

江戸初期写 一四册 谷 四四七

(五) 諸家系図 藤原・橘外六七種 首欠

江戸初期写 一折 谷 一

附 姓氏 俗名融通 大内裏図 南殿賢聖図

帝皇并百官唐名 官位相当 御給年官年爵封戸位田等

古語拾遺

齋部広成

明応元年写
智祐

一册 谷 三三六

(奥書)

本云

文明十九年二月上旬課或人書写焉、同五月「廿五日為備後代之証本、以累家之秘説加」

朱墨兩点説合之畢」

藏人神祇少副卜部朝臣兼致

同六月十一日加首書訖 卜部判

右一册者於永昌坊披見次令書写畢」

万葉註釈

釈仙覚

江戸初期写

五册 谷 四七九

(卷一奥書)

文永六年二月廿四日記之訖 仙覚在判

建治元年十一月上旬比以作者仙覚律「師自筆本、教人抄写畢、而後日校合、」所略等

悉可書入之、同廿八日書入畢、」同廿九日一校畢、同二年六月五日以抄」写本書入畢、

同六日一校之

僧正一乘院与福寺別当師実男 玄覚在判

弘安三年庚辰春正月癸卯朔庚戌以本集「一見了、管見之所及、押紙註之」

権律師玄覚

伊勢物語 異本

江戸初期写 一册 谷 四六〇

(巳) 徒然草 流布本

吉田兼好

室町期写
朱墨書入

一册 谷 二七

(丙) 仙源鈔 耕雲本

長慶天皇

室町末期写
權僧正真淳

一册 谷 三四四

(與書)

本云「右一帖者借請中院前内府通秀公耕雲本自筆」仰右大弁宰相元長朝臣

令書写之、但遅々」件本念之間與十二三枚予書之」

于時文明十八年菊月廿二日終功訖」按察使藤原親長判「同九月廿六日一校了」

此抄所持之本紛失之処、甘露寺前重相「元長卿書写之与予給、即刻逐一校者也」

時永正十八年辛巳孟夏二十日」從四位上藤原資直」

右一册者亡父相伝雖為秘抄、或仁依懇望」許一覽被遂書写之功、嚴命難辭之」

條加一校、大抵落字等之誤無之者歟、深」可禁他見而已」

于時弘治元年乙卯黃鐘十四日」刑部卿藤原氏直」

書写了 權僧正真淳

(辰) 後葉和歌集 別本

江戸中期写 五册 谷 三一

(卯) 六家抄

室町期写 二册 谷 七一

(寅) 新葉和歌集

宗良親王 室町期写 二册 谷 四六八

(修補與書)

天文九年三月廿日加修補了」侍從下部朝臣(花押)(吉田兼右)

(三) 新葉和歌集

承應二年版
明治六—二四年谷森善臣手校

四册 谷 四七〇

(三) 新葉集歌人履歷

草稿 谷森善臣 明治六年自筆

一册 谷 九五

(三) 今鏡

(第一册校合與書)

明治十四年九月廿四日就慶安三年中野道伴所刻本一校訖」

人々小伝等抛公卿補任尊卑分脈皇代曆等諸書旁註為備」遺忘也」

同年十月十一日就今鏡抄本校訖」

明治十六年九月七日就美隱小木校合訖」(印)(善臣之印)

江戸中期写

三册 谷 三三九

(三) 増鏡

(本與書)

三富農前守入道

此三册 上中 下中 積宗親 俗名藤原忠胤 所持本也」

邦高親王有一覽、外題令」書給返給云々

可謂面目、伝子孫莫勉」聊爾者乎、余逐覽之次、相違所々加筆」為後証記之」

宗親自 伏見殿 式部卿 書之

室町期写
谷森善臣朱注

三册 谷 三〇四

嘉永正十八曆仲旬春夾鐘天

中御門一位大納言入道春秋八旬
桑門乘光

(三) 水鏡

江戸末期写

一册 谷 二四四

(本奥書)

此水鏡中讀大慈光院 南御所 御木 妙善院殿 借 聊掌侍 故中納言 基綱卿女 筆、令書写、可秘藏之

永正第九後四月十六日 古槐散木 判(三条西実隆)

(校合奥書)

明治八年十月廿八日就一古写本对校畢(印) (善臣)

明治十四年五月十四日就弘治写本对校訖「件本後人加筆繁多也」

今皆不写取、其本奥書如左 (後略)

(二) 古事記

寛永二一年版
谷森善臣手校

一册 谷 一六〇

(一) 古事記

嘉永七年写并校
谷森善臣

一册 谷 一七〇

(四) 播磨風土記 附 地名 人名 目錄

嘉永五年写
谷森善臣

三册 谷 二二五

(奥書)

播磨国風土記一卷就三条西殿文庫古卷写畢

嘉永五年三月廿九日

種松

- (三) 谷森靖齋史論雜纂 明治
草稿 谷森善臣 自筆 一册 谷 四九
- (三) 谷森靖齋翁雜稿 天保一四—明治四〇 谷森善臣 自筆 一三册 谷 一四三
- (三) 滝のしら玉 定稿
長慶天皇
谷森善臣編 明治三六年自筆 一册 谷 六三
- (三) 嘉喜門院御歌集抄 初稿 谷森善臣編 明治二四年自筆 一册 谷 一〇一
- (三) 南朝関係稿本 谷森善臣 明治自筆 四册 谷 八〇
- (三) 正平の御はらから 稿本 谷森善臣 明治三六年写 一册 谷 六一
- (三) 蘭笠のしづく 稿本 谷森善臣 安政四年自筆 二册 谷 一三九
- (三) 諸 陵 徴 谷森善臣 嘉永四年自筆 四册 谷 八九
- (三) 諸 陵 説 谷森善臣 安政三年自筆 五册 谷 二〇
- (三) 延喜諸陵式証注稿 谷森善臣 嘉永七年自筆 一册 谷 二六四

- (四) 御陵考 嵯峨—崇光天皇 (有欠) 谷森善臣 安政三年自筆 二册 谷 四二
- (四) 柏原山陵考 谷森善臣 慶応元年自筆 一册 一六八 三〇二
- (四) 柏原山陵弁妄並木岡御陵之事 谷森善臣 明治三一年自筆 一册 谷 四四
- (四) 山陵図 附考証之書(谷森善臣) 文久二年写 二帖 谷 六
- (四) 古登多曆稿本 谷森善臣 嘉永六年自筆 一册 谷 二六〇
- (四) 古代通用文字考 谷森善臣 明治三六年自筆 一册 谷 二二一
- (四) 声韻図考 草稿 谷森善臣 明治一三年自筆 三册 谷 一四〇
- (四) 言語経緯 谷森善臣 自筆 一册 谷 五九
- (四) 玉の七ヶ条 草稿 谷森善臣 自筆 一〇册 谷 八三
- (四) 和名類聚抄 源順 元和木活 一〇册 谷 三〇三
- (四) 和名類聚抄 昌平木 江戸末期写 二册 谷 二八六

和名類聚抄 京本

江戸末期写 三册 谷 二八九

(木與書) (第一册卷末)

右一册借吉田鈴鹿河内守藏本令備書生影写手自一校

文政四年七月 狩谷望之識于京師客舎

(第三册卷末)

以上二册借福井丹波守藏本影鈔手自鐫好」是本旧難波宗建卯所藏今分在二家

文政辛巳年七月 狩谷望之識于京師客館

和名類聚抄 下総本

江戸末期写 五册 谷 二六六

(木與書)

時寬保癸亥夏五月中於於皇都書肆求得之」皇和桑門東垂総陽香取郡

猶木邨法印快賢伴題

寛政十二年十二月二日一説了掃齋主人」(青墨)

跳伊舞上人書之 天文丙午天

文政六年十二月既望借原本訂誤写数字

